

# 特集

# 「宝」の 見つけ方 磨き方

全国にはまだまだ「眠っている宝」とも言える資源が存在する。それを見つけて、磨き上げることで、地域の活性化につなげる。とができるのではない。今号では、それに全力で取り組む事例を取り上げた。



取材・清水 高  
笠井尚紀  
山田清志  
関根利子

## 特集 「宝」の見つけ方、磨き方

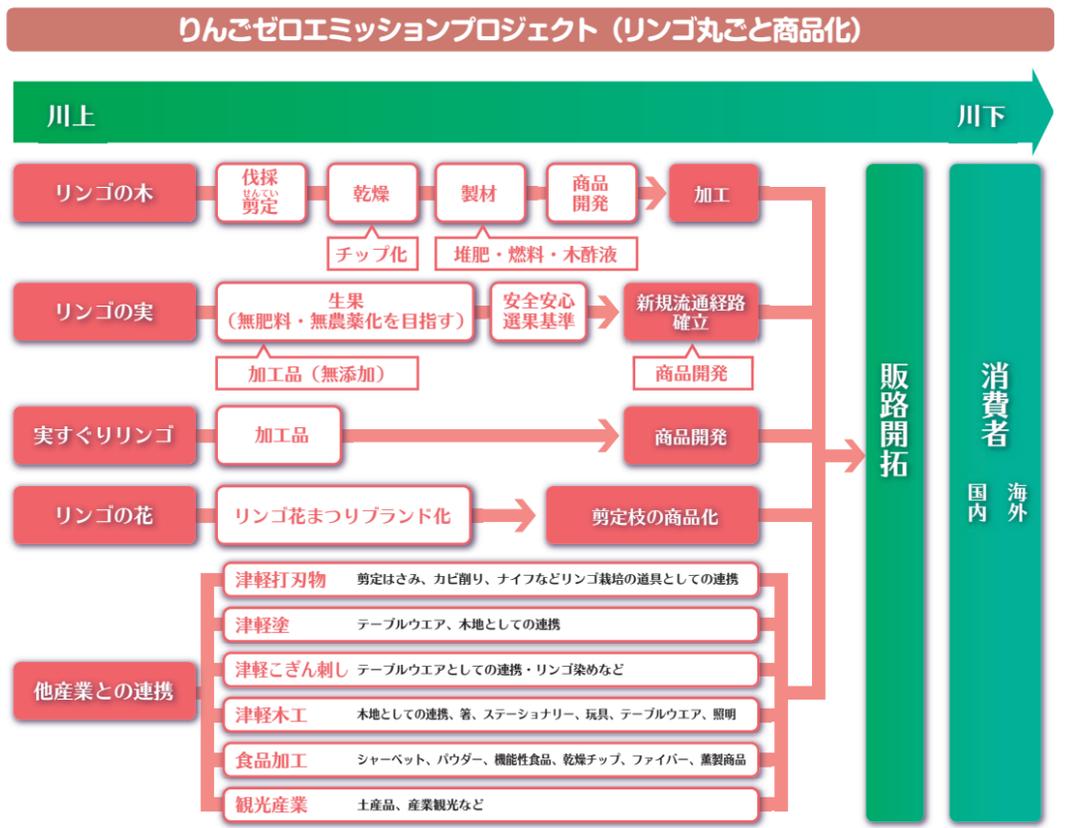


青森県の西部に位置する弘前市は、自然に恵まれ見どころも多いまち。特に4月下旬から弘前城を中心に咲き誇る桜の見事さは有名で、多くの観光客が訪れる。その弘前市を代表する産業が、リンゴの生産だ。地元の商工会議所では、「りんごゼロエミッション」をキーワードに、果実だけでなく、枝からおがくずまで丸ごと商品化しようというプロジェクトを推進中。すでに数々の人気商品が生まれ、海外からも引き合いが来ているという。

### パリの展示会で商談が相次ぐ

1月20日から5日間にわたって、フランス・パリで「メゾン・エ・オブジェ」が開催された。これは、インテリアやテーブルウェアの分野で世界最大級の規模を誇る展示会。その会場に弘前商工会議所は「HIROSAKI SPACE-LIFESTYLE」(弘前な空間デザイナー)という名称で18㎡のブースを

## リンゴ丸ごと商品化プロジェクトで 廃材がお金を生む商品に変身



構えた。「地域の伝統工芸である津軽塗、こぎん刺し、打刃物など約200点を出品しました。その中にはリンゴの木でつくった箸やスプーン、ナイフ、収納ボックスなどの木工品も含まれています。来場者の反応は大変よく、その場で80件の商談が行われ、うち2件の取引契約がすでにまとまり、10件は前向きに交渉中です」と弘前商工会議所まちそだて課課長の村谷要さんは話し、こう付け加える。「海外の展示会にはできるだけ出展するようにしています。世界の人々に弘前のよいものを知ってもらいたいと思っています。そして、こうした取り組みを続けてきたおかげで、弘前ブランドの認知度が上がり、今ではパリのセレクトショップでも扱ってもらえるようになりました」

同所では現在、「地域を先導する商工会議所」という行動指針の下、地元の工芸品を使った、さまざまなプロジェクトを進めている。今回

### 弘前商工会議所 青森県弘前市